

平成22年12月8日

報道機関各位

財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査平成22年11月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成22年11月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は「厳しさが続くなかで、弱いながらも持ち直しの動きがみられる」

- ・消費者の節約志向や厳しい雇用環境が続くなかで、需要を押し上げる明るい材料に乏しく、為替・株式動向が企業経営や雇用に与える影響についても懸念されており、総合的には、厳しさが続くなかで弱いながらも持ち直しの動きがみられると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード…冬物衣料（現状）、新幹線延伸開業（先行き）
- ・マイナスのキーワード…低価格・買い控え（現状、先行き）、エコカー購入補助金（現状）、たばこ増税（現状）、エコポイント（先行き）、為替・株式（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「42.0」（+3.4）は、4か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回った。
- ・家計動向は、消費者の低価格志向や節約志向が続くなかで、エコカー購入補助金終了やたばこ増税、野菜の価格高騰などにより需要が落ち込んでいるものの、冬物衣料や高単価商品に動きがみられる。DIは「40.1」（+3.2）と4か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回っている
- ・企業動向は、厳しい経営環境のなかで、住宅販売など一部に動きがみられるものの、円高や需要縮小等の影響から受注環境や売上が低迷している。また、夏から秋にかけての高温が影響し、農産物に品質・収量の低下がみられる。DIは「45.1」（+6.7）と2か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回っている。
- ・雇用動向は、雇用動向は、求人数や求人倍率は低水準で、雇用環境は依然として厳しい状況が続いている。DIは「47.6」（▲2.4）と2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50を3か月ぶりに下回っている。

### (3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「40.1(+3.0)」は、2か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を7か月連続で下回った。
- ・家計動向は、消費者の低価格志向や節約志向が続くなかで、年末年始から年度末にかけての需要期の動きに期待感があるものの、家電エコポイントの駆け込み需要の反動減や、円高・株安の影響が懸念されている。DIは「40.7」(+4.3)と5か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を7か月連続で下回っている。
- ・企業動向は、円高の影響や国内需要の縮小等から、受注環境や設備投資の低迷は続き、厳しい経営環境に変化はみられない。DIは「37.2」(±0.0)と横ばいで、「横ばい」を示す50を7か月連続で下回っている。
- ・雇用動向は、自動車工場の本格稼働や新型車の生産開始による波及効果に期待感がみられるものの、雇用環境の大幅な改善は見込めず、円高による雇用への影響も懸念されている。DIは「41.7」(±0.0)と横ばいで、「横ばいを示す」50を5か月連続で下回っている。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)  
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10  
TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、  
厳しさが続かなかで、弱いながらも持ち直しの動きがみられるとのことである。

### 2. 今月のDI※

#### (1) 現状判断(方向性)DI

3か月前との比較である現状判断DIは、42.0(前月比3.4)と、4か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回った。

	21年			22年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北現状	38.8	29.5	31.2	35.3	39.5	46.2	49.4	46.8	48.6	51.3	42.9	40.7	38.6	42.0
家計動向関連	37.1	27.4	29.5	34.3	38.4	45.4	46.9	44.3	48.3	51.8	44.2	39.2	36.9	40.1
企業動向関連	43.1	35.3	35.0	40.6	43.9	49.4	56.9	53.1	47.4	50.6	38.4	40.4	38.4	45.1
雇用関連(参考)	41.7	32.1	35.7	32.1	37.5	45.5	51.2	51.2	52.4	48.9	43.2	51.2	50.0	47.6

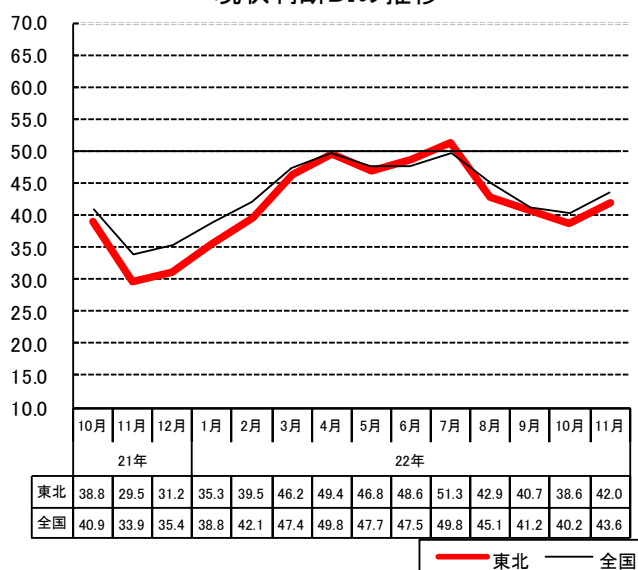
#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、40.1(前月比+3.0)と、2か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50を7か月連続で下回った。

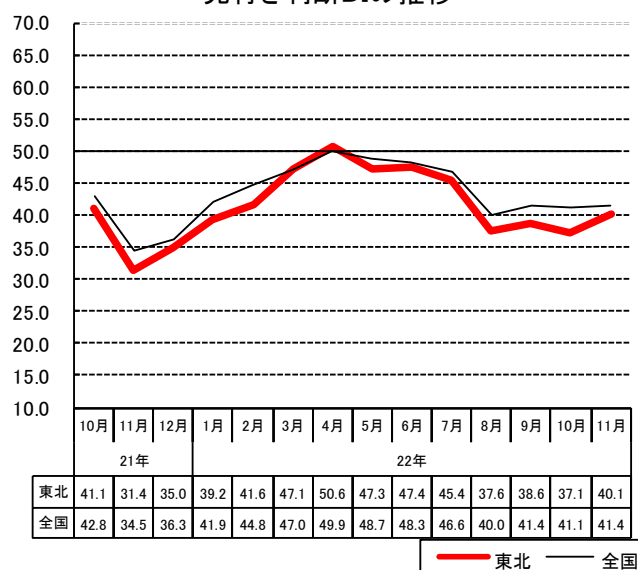
	21年			22年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北先行き	41.1	31.4	35.0	39.2	41.6	47.1	50.6	47.3	47.4	45.4	37.6	38.6	37.1	40.1
家計動向関連	40.4	30.9	33.6	38.3	40.3	46.5	50.4	46.3	46.5	44.0	37.6	37.6	36.4	40.7
企業動向関連	41.9	32.1	36.9	45.0	45.1	48.1	50.6	49.4	47.4	48.1	39.0	39.1	37.2	37.2
雇用関連(参考)	44.0	33.3	40.5	33.3	43.8	48.9	52.4	50.0	53.6	48.9	35.2	44.0	41.7	41.7

※DI (Diffusion Index) について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



先行き判断DIの推移



### 3. 調査の概要

調査期間 平成22年11月25日～平成22年11月30日

回答者数 199/210名、回答率94.8% (全国1,868/2,050名、91.1%)

#### 4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

##### （1）現状判断理由

###### ○「良くなっている」

（百貨店）…今年は夏から秋にかけて気温が高めで推移し、初秋物の出だしの動きが芳しくなかったが、10月後半以降は比較的気候も落ち着き販売量が増えている。特に婦人衣料に関しては前年を上回る販売量で推移している。

###### ○「やや良くなっている」

（百貨店）…11月に入り、コートなどの高単価商品が売れ出し、防寒衣料が好調に推移している。また、婦人服売場で開催したバーゲン、併設催事として行われた歳暮ギフトの客層を想定した品ぞろえが功を奏し、売上は前年をクリアしている。この催事でも、コートなどの防寒衣料の動きの良さが目立っている。

（衣料品専門店）…前年は低価格の商品に人気集中していたが、今年は単価が例年並みに戻りつつあり、客単価が引上げられ売上が好調となっている。若干ではあるがデフレから回復しつつあると見ている。

（広告業協会）…住宅減税などもあり戸建住宅は好調である。また、住宅展示場の来場者も夏場を過ぎてから増加している。流通業では駅前のファッション店は前年より売上が伸びている。百貨店は少しは持ち直してきているものの、広告費は依然として増えていない。

（職業安定所）…前年に比べ新規求人が増加している。ただ、前年の同月は2年前に比べ大幅な減少があったことから、一概に良くなったとはいえない。

###### ○「変わらない」

（カメラ販売店）…販売量、売上共に横ばいで推移しているものの、消費者の低価格志向が続いており、高額商品の動きは鈍くなっている。

（スーパー）…たばこ増税後の売上の落ち込みも徐々に回復傾向にあるが、いまだ全面大幅割れの状況が続いている。また、食品に関しても、野菜の高値、猛暑の影響による漁獲物の出入荷の減少などによる高値で厳しい状況が続いている。

（コンビニ）…たばこの値上げにより来客数が減っており、今月になってもその傾向は続いている。

（衣料品専門店）…カジュアル衣料の需要が伸びてきている反面、スーツを始めとしたビジネス衣料の需要は減少しており、プラスマイナスゼロの状態が続いている。

（一般レストラン）…ランチタイムの客が2名、ディナータイムがゼロ、といったような極端な日もあり、深刻な状況が続いている。

（観光型旅館）…紅葉が遅くなった分、11月後半に前年並みの集客があったが、消費単価が下がっており、収益はやや下がった。前月までの前年比の落ち込みから見ると、やや持ち直している。

（通信会社）…客との商談から、地場企業はここ数年は現状維持という話がほとんどで、経費削減の意欲はうかがえるが、好況に結び付く材料がない。

（農林水産業）…9～10月の暖かさで、りんごの着色が悪く品質も落ちている。また、贈答用の注文は前年比で1割程度減少している。

（食料品製造）…歳暮ギフトは市場縮小傾向にあり、なおかつ早期割引等の価格競争も激しくなっている。前年と比べても厳しい状況である。

（繊維工業）…受注先の様子を聞くと、秋冬物の最盛期にもかかわらず店頭売行きが良くないため、春夏物の展示会の受注もあまり芳しくないようである。

（人材派遣会社）…急な欠員や産休育休が発生した場合の当座の補充という注文のみが目立ち、受注増に起因するような実質的な増員はほとんど見られない。クリスマス商戦等の短期間の増員についても、例年より規模が小さくなっている。

（新聞社〔求人広告〕）…求人数の動きが底を打ち、9月からは前年並みに推移していたが、今月に入り2番底になり、前年比80%台になっている。

###### ○「やや悪くなっている」

（スーパー）…猛暑特需の反動に加え、家電エコポイントの終了が迫っていることもあり、食品におい

ては節約志向が更に高まってきている。

(コンビニ) …150 円前後のデザートは若い女性を中心に好調である。ただし、値上げにより、たばこの購入客が減っていることに加え、低単価の銘柄を購入する傾向がみられることから、たばこの売上は前年比 88%である。また、本、雑誌の購入も減少傾向にあり、売上は同 88%である。さらに、生活必需品である日配食品や生鮮品は堅調な動きを見せているが、105 円を中心とした低単価商品が中心となっている。

(都市型ホテル) …依然として消費者の財布のひもは固く、来店回数と消費単価は減少している。忘新年会の受注状況も規模縮小や単価ダウンがあり、なかなか伸びない。円高、デフレ、賃金の抑制と周りの環境は一段と厳しさを増している。

(美容室) …カットやパーマにトリートメントを追加するといったことがない。目的以外のものには客の意識がなく、客単価が伸びない状況となっている。

(電気機械器具製造業) …受注価格が徐々に下がっており、業績に影響が出ている。

(建設業) …住宅エコポイント制度の利用が伸び悩んでいる。

(職業安定所) …円高やエコカー購入補助金の終了、家電エコポイントの削減など消費低迷の要素が多く、市場経済は活発化していない。また、製造業の求人数が減少している。

## ○「悪くなっている」

(乗用車販売店) …車よりも家電エコポイントの方に客が流れたのか、エコカー購入補助金終了直後よりは若干持ち直しが見られるものの、新車受注、販売共に前年比 30%強の落ち込みとなっており、厳しい状況が続いている。

(観光型旅館) …個人客は宿泊直前に予約を入れる傾向にあり動向がつかみ切れない。景気の低迷により、企業や団体の忘年会が自粛ムードにあり、開催しても少人数化の傾向にある。

(一般機械器具製造業) …急激な為替相場の変動で、経営に大きな影響が出ている。

(人材派遣会社) …派遣社員受け入れの新規案件は前年比 20%減の状態が続いている。

## (2) 先行き判断理由

### ○「良くなる」

(百貨店) …各部門の売上が非常に好調である。また、徐々に回復を見せているナショナルブランドの高単価商品の動きが更に良くなれば、前々年の売上まで回復すると予想される。

### ○「やや良くなる」

(衣料品専門店) …発熱素材など機能商品の動きが例年になく良く、12 月以降、長期予報通り前年以下の気温になれば、アウターやコートなど高単価商品の動きに期待が持てる。

(酒専門店) …たばこの販売量が徐々に戻り、年末年始の忘新年会で飲食店も活気付くことが予想されるとともに、中元は贈らない企業や個人消費者も歳暮は贈る傾向にあることから、売上が良くなることを期待している。

(その他企業 [工場施設管理]) …仕事量の増加で人員が不足気味となっており、残業や休日出勤をする社員が目立つようになってきていることや、派遣会社の商談来客や個人面接に来る人の姿が見られること、売上は増えつつあるという納品業者の話からも、徐々に景気が回復しつつある。

### ○「変わらない」

(商店街) …本格的な冬場に入り、コート等の重衣料の売上が期待できるものの、客単価が落ちる傾向にあるので予断を許さない。12 月 4 日の新幹線延伸開業を控え、各種イベントを予定しており、外部地域からの来街者に期待している。

(医薬品販売店) …来客数の増減はあるが、買上点数が減少していることから、今後も必要なものしか買わない傾向は続くことが予想される。

(百貨店) …クリスマス、年末年始と人の出入りが多い時期なので、売上も期待したいところだが、客の財布のひもは固く必要なもの以外は購入しない傾向は変わらない。

(スーパー) …オーバーストアの状況のなかで、更に競合店が出店するという情報もあり、価格競争は

今後ますます激しくなることが予想される。

(コンビニ) …依然として客の買い控えが続いているため、現在の状況は変わらない。

(乗用車販売店) …販売予定の新型車への予約注文が少なく、需要減の歯止めにはなりそうだが、販売増への期待は薄い。

(パソコン専門店) …消費者の低価格慣れもあって利益に繋がる商品の動きが鈍く、低価格商品の販売量を増やして何とか現状を維持している状況で、今後、活発な物販の動きは期待できない。

(観光型ホテル) …営業で各企業、団体を回るが、客は将来に対してかなりの不安感を持っている。景気が悪いとやはり温泉に回すお金は最後になるため、われわれがサービスを図ってもかなり厳しい状況は続くと予想される。

(旅行代理店) …12月は高校の修学旅行取扱により販売額が伸びるものの、12～1月の個人旅行は先行受注の動きが鈍い。年末年始の宿泊の受注が進んでいない。同時期の海外パッケージ旅行では前年比で180%の受注がある。基盤となる国内旅行の回復がみられないと店舗経営は改善しない。

(食料品製造業) …一部値上がりしている原料もあり、受注が悪いなかでのコストアップが懸念される。

(飲食料品卸売業) …得意先の与信管理に一層の注意が必要で積極的な出荷ができないこともあり、年末に向け需要期に入るが、好転する気配がない。

(金属工業協同組合) …依然として超短納期や他社との価格競争があり、さらに原材料の価格がじりじりと上がっていることから、今後良くなる材料はない。

(人材派遣会社) …取引先企業において増員する要因に欠けており、あっても派遣社員を利用しようという気配がない。利用に対し慎重な姿勢の企業が増える。

(新聞社〔求人広告〕) …今月から、大手自動車メーカーが欧州へも輸出する新型コンパクトカーの生産を開始し、県内関連産業の振興に弾みがつくことが期待されている。また、12月4日の新幹線の延伸開業の効果が県内に出てくるのは、暖かくなった春の観光シーズン以降になると予想される。

(職業安定所) …雇用調整助成金の利用は減少しているが、円高やデフレ等の影響により、大幅な求人の増加は期待できないため、この状況は続く。

## ○「やや悪くなる」

(コンビニ) …販促キャンペーンにより売上、来客数は増加しているものの、客単価は前年比98%、買上点数は同100%と変わらずで、キャンペーンなしでは今月のプラスはなかった。主力の弁当類の販売動向は300円未満が同120%、300円以上は同87%となっていることもあり、今後、キャンペーンの終了に伴い、状況が悪化することが懸念される。

(家電量販店) …エコポイントの半減を前にした駆け込み需要の反動から、今後は販売数量が減少する。

(都市型ホテル) …供給過多になっているのが現状で、他店との過当競争、客単価が低い現在の状況は変わらない。

(電気機械器具製造業) …受注価格が徐々に下がっていることに加え、円高の影響もあり、今後数か月は業績の回復が見込めない。

## ○「悪くなる」

(コンビニ) …たばこの値上がりにより激減した来客数に、回復の兆しが見えない。

(乗用車販売店) …エコカー購入補助金が終了し、販売での売上は期待できないので、サービスやメンテナンスにより粗利益を稼いでいくしかない。

(建設業) …各社手持ち工事の減少に伴い、更なるコスト競争が予想され、状況はますます悪化する。

(人材派遣会社) …派遣契約の中途解除も頻発しており、厳しい状況は続く。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上